

2020年東京五輪は24日開幕まで3年。このほど日本オリンピック委員会（JOC）の選手強化本部長に就任した柔道の1984年ロサンゼルス五輪無差別級金メダリスト、山下泰裕氏（60）がインタビューに応じ、金メダル12個を獲得した昨年のリオデジャネイロ五輪からの大幅増に強い決意を示した。

金メダル20〜30個目標



インタビューに答えるJOC選手強化本部長の山下泰裕氏

JOC選手強化本部長
山下 泰裕 氏

「金メダル数世界の3位が目標。最低でも20個、場合によっては30個取らないと届かない。柔道、レスリング、体操、水泳が柱で（リオ五輪からの）上積みを目指していく。バドミントンや卓球など勢いのある競技には、4競技に連続結果を残してほしい。一部だけでなく、できる限り多くの競技でメダリストや入賞者を出した

「慌てはいけませんが、非常に危機感がある。今の時期にやらないといけないことを一つ一つ塗りつぶしていかなければいけない」
強化プランは、「7月に就任したばかり。現段階の日本の力を知ることから始めないといけない。リオ五輪後すぐにやるべきだったが、年内には終わらせたい」

「五輪が日本のスポーツ界にもたらすものは、日本勢の活躍が競技の今後の発展に影響する。五輪、パラリンピック一体で国民の期待、注目にどう応えていくのか。全ての競技団体が腹をくくり、心を一つにしていくだけの価値はある」

「新しい実施種目も。例えば空手。実力はあるけれど、五輪を経験していないから、さまざまな支援を求めているだろう。過去の成功事例を基にしながらサポートしていきたい」
成功の鍵は、「JOCと各競技団体がやるべき部分、日本スポーツ振興センター（JSC）や大会組織委員会の協力を得る部分を今年中に整理し、現場の声を聞かなければならない。画的ではなく、丁寧に対応し、それぞれのニーズに応えていけるか」

①日本が金メダルをたくさん取るために、柱になる種目を4つ書きましょう。

[]
[]
[]
[]

②山下氏が勢いがあると考えている種目を2つ書きましょう。

[]
[]

③あなたの好きなスポーツを書きましょう。

[]

2017年7月24日 朝刊

年 組 名前

(小学校・中学校 保健体育・総合)